

プログラム

第 1 日目 6 月 5 日 (金)

第 1 会場 (講堂)

■ 大会長講演 (9:30 ~ 10:15)

みちを拓く～かけ橋としての司法精神医学 24

座長：石津 すぐる 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター 副院長
 演者：賀古 勇輝 北海道大学病院附属司法精神医療センター センター長

■ シンポジウム① (10:20 ~ 12:00)

受刑者の特性に応じた処遇・支援に取り組む各 (モデル) 事業の紹介
 ～矯正施設から社会へのソフトランディングを目指して

座長：宮腰 哲生 札幌刑務所
 座長：朝比奈 牧子 法務省矯正局 更生支援管理官

精神障害受刑者処遇・社会復帰支援モデル事業の現場から
 ～再犯のない地域生活への「I P P O」を目指して～ 36

演者：渡部 恵 札幌刑務所医務部 法務技官作業療法士

女性薬物依存症者への回復に向けた支援について 37

演者：粥川 史織 札幌刑務支所 女子依存症回復支援センター

長崎刑務所における知的障害受刑者処遇・支援モデル事業の取組状況について ... 38

演者：星川 安春 長崎刑務所矯正処遇部 矯正処遇調整官

発達上の課題を有する受刑者に対する
 処遇・社会復帰支援モデル事業 (DUO) の取組について 39

演者：谷岡 明 大阪刑務所矯正処遇部 DUO (Developmental disorder Unit of Osaka) 教育専門官・臨床心理士

刑事施設における処遇・支援モデル事業の概要と導入経緯 40

演者：朝比奈 牧子 法務省矯正局 更生支援管理官

■ 評議員会 (12:05 ~ 12:35)

■ 特別講演① (13:05 ~ 14:05)

生物心理学的研究に基づく未来の司法精神医学：
 フロイトの「死の欲動」と脳内免疫細胞ミクログリア 25

座長：賀古 勇輝 北海道大学病院附属司法精神医療センター センター長
 演者：加藤 隆弘 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室 教授

はじめに

日程表

プログラム
第 1 日目

プログラム
第 2 日目

ポスター
プログラム

指定演題

一般演題

■ 特別講演② (14:10 ~ 15:10)

医療観察事件における被害者支援

座長：小西 聖子 武蔵野大学 学長

医療観察法被害者に対する法的支援の推移と

「第5次犯罪被害者等基本計画」の画期的施策について 26

演者：木村 邦弘 特定非営利活動法人 さっぽろ犯罪被害者等援助センター 理事長

医療観察事件被害者の思いと「医療観察法と被害者の会」の活動を通して 28

演者：大森 真理子 医療観察法と被害者の会 代表

■ シンポジウム② (15:15 ~ 16:55)

【拡大版】処遇終了基準に関する検討会

座長：村杉 謙次 国立病院機構小諸高原病院 院長

処遇終了基準に関する検討会～課題提起 41

演者：壁屋 康洋 国立病院機構榊原病院 主任心理療法士

医療観察法入院処遇における治療反応性の限界の見極めについて

－指定入院医療機関の立場から－ 42

演者：久保 彩子 国立病院機構琉球病院 精神科医長／
東京科学大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野（犯罪精神医学担当）

入院継続確認及び処遇終了申立事件の処理について

（治療困難な対象者を念頭に） 43

演者：渡邊 史朗 札幌地方裁判所部総括判事

終了決定により医療観察法の入院処遇を終えるということ

～一社会復帰調整官の立場で～ 44

演者：澤下 靖典 札幌保護観察所 首席社会復帰調整官

第 1 日目 6 月 5 日 (金)

第 2 会場 (大集会室 1)

■ 一般演題① (10:20 ~ 11:05)

精神鑑定 1

座長：岡田 幸之 東京科学大学大学院 精神行動医科学分野 教授

- 01-1 殺人未遂に至った統合失調症者の「機序」と「責任能力」(第 2 報)
— 「可知論」と「不可知論」の歴史的事実も含めて — 62
発表者：赤崎 安昭 鹿児島大学医学部保健学科／鹿児島大学大学院保健学研究科
- 01-2 被疑者の妄想に基づく行動が被害者の行動に影響を与え、
事件の契機となった事件例 62
発表者：山梨 豪彦 鳥取大学医学部 脳神経医科学講座 精神行動医学分野
- 01-3 妄想性障害の多くは自閉スペクトラム症である 63
発表者：堀切 靖 鹿児島県立始良病院

■ 一般演題② (11:10 ~ 11:55)

精神鑑定 2

座長：大澤 達哉 東京都立松沢病院精神科 部長

- 02-1 責任能力論の国際座標：日本の法廷で何が起きているのか 63
発表者：村松 太郎 JDC 六番町メンタルクリニック／慶應義塾大学医学部 精神・神経科
- 02-2 精神医学的行為論のために — 「刑事責任能力の判断について 原理・基準・適用」
(佐野文彦 有斐閣 2025) の検討 64
発表者：吉岡 隆一 京都府立洛南病院
- 02-3 責任能力概念再考 64
発表者：辻 恵介 武蔵野大学人間科学部

はじめに

日程表

プログラム
第 1 日目

プログラム
第 2 日目

ポスター
プログラム

指定演題

一般演題

■ ランチョンセミナー① (12:10 ~ 13:00)

性犯罪加害者に対する再犯防止の取り組み 60

共催：ヴィアトリス製薬合同会社

座長：中島 公博 医療法人社団 五稜会病院 理事長・院長

演者：長谷川 直実 医療法人社団ほっとステーション 大通公園メンタルクリニック 院長

■ 対談① (15:15 ~ 16:35)

性犯罪・性暴力の被害者支援と加害者支援のコラボレーション

座長：吉岡 眞吾 愛知県精神医療センター 精神科・児童精神科

性犯罪・性暴力の被害者支援者と加害者支援者のコラボレーション 31

コーディネーター・座長：吉岡 眞吾 愛知県精神医療センター 精神科・児童精神科

加害者臨床から被害者支援を考える — 被害認識と再被害防止の視点から — 32

演者：東本 愛香 千葉大学社会精神保健教育研究センター 特任講師

性暴力被害者支援と加害者支援の接点
— ワンストップ支援センターでの SANE の実践を通して — 33

演者：片岡 笑美子 一般社団法人 日本フォレンジックヒューマンケアセンター 代表理事

第 1 日目 6 月 5 日 (金)

第 3 会場 (大集会室 2)

■ 一般演題③ (10:20 ~ 11:05)

医療観察法入院処遇

座長：本村 啓介 国立病院機構花巻病院 院長

- 03-1 医療観察法病棟における個別対話実践による医療不信の変化 65
 発表者：駿河 勇太 北海道大学病院附属司法精神医療センター／北海道大学病院 リハビリテーション部
- 03-2 夫が扶養義務を果たさず、
 医療観察法入院対象者である妻の地域調整に難渋した一例 65
 発表者：安田 新 神奈川県立精神医療センター
- 03-3 司法の柔軟な対応が円滑な退院の一助となった事例 66
 発表者：平井 彩 神奈川県立精神医療センター

■ 一般演題④ (11:10 ~ 11:55)

児童青年期司法精神医学

座長：三井 信幸 北海道大学保健センター 准教授

- 04-1 日本における児童青年期司法精神医学について (10)
 — 子どもの虚言について — 66
 発表者：中山 浩 川崎市南部児童相談所
- 04-2 少年院におけるクライシス・プランの協働的実践プロセスの検討 67
 発表者：東本 愛香 千葉大学社会精神保健教育研究センター
- 04-3 非行と気分症に関する予備的研究
 — 少年鑑別所及び医療少年院での臨床経験から — 67
 発表者：吉永 千恵子 東日本少年矯正医療・教育センター

はじめに

日程表

プログラム
第 1 日目

プログラム
第 2 日目

ポスター
プログラム

指定演題

一般演題

■ ランチョンセミナー② (12:10 ~ 13:00)

社会認知機能の診たてとデジタルツールによる評価と介入

精神障害患者の社会認知機能障害と司法精神医療の現場における
FACE DUO を活用した SST の実践報告 61

共催：大塚製薬株式会社

座長：安田 新 神奈川県立精神医療センター 専門医療部長

演者：橋本 直樹 北海道大学大学院医学研究院 神経病態学分野 精神医学教室 准教授

演者：國田 幸治 北海道大学病院 リハビリテーション部

北海道大学病院附属司法精神医療センター 作業療法士

■ ワークショップ① (15:15 ~ 17:30)

動機づけ面接 (Motivational Interviewing) 導入ワークショップ 57

講師：大脇 堅儀 札幌保護観察所 主任保護観察官

講師：國田 幸治 北海道大学病院附属司法精神医療センター 作業療法士

第2日目 6月6日(土)

第1会場(講堂)

■ シンポジウム③ (9:00 ~ 11:00)

刑事精神鑑定の「機序」— 鑑定人は何をどのように書くべきか—

座長：村松 太郎 JDC 六番町メンタルクリニック 院長
座長：永田 貴子 横浜市こころの健康相談センター 健康福祉局 担当部長

刑事精神鑑定の「機序」— 鑑定人は何をどのように書くべきか— 45

演者：高信 径介 北海道立向陽ヶ丘病院 精神科

「機序問題」なる擬似問題、あるいは事実認定構造への着目の勧め 46

演者：茨木 丈博 東京科学大学保健管理センター 准教授

機序と非難 47

演者：竹川 俊也 慶應義塾大学大学院法務研究科 准教授

精神鑑定において法曹から精神科医に求めるもの— 検察官の視点から 48

演者：奥野 雄一郎 最高検察庁

■ 教育講演① (11:05 ~ 12:05)

更生のみちを共に歩む— 対話実践による社会復帰支援の挑戦— 29

座長：柑本 美和 東海大学法学部 教授

演者：中島 学 福山大学人間文化学部 教授

■ 総会 (12:30 ~ 13:00)

■ 教育講演② (13:05 ~ 14:05)

刑務所で当事者研究をやってみた 30

座長：八木 深 独立行政法人国立病院機構花巻病院 院長

演者：向谷地 生良 社会福祉法人浦河べてるの家 理事長 (北海道医療大学名誉教授)

はじめに

日程表

プログラム
第1日目

プログラム
第2日目

ポスター
プログラム

指定演題

一般演題

第2日目 6月6日(土)

第2会場(大集会室1)

■ シンポジウム④(9:00～10:40)

医療観察法の現場から立ち上げる臨床研究

座長：三井 信幸 北海道大学保健センター 准教授
座長：竹田 康二 国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部 医長

医療観察法入院者における注意欠如多動症の診断・治療の実態：

指定入院医療機関を対象とした横断調査 49

演者：静川 憲一 北海道大学病院附属司法精神医療センター

臨床疑問をもとに研究を行う意義と難しさ 50

演者：荒川 育子 東京都立松沢病院 精神科医長

ナショナルセンターとしての医療観察法研究 51

演者：竹田 康二 国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部 部長

鑑定入院の質の向上を目指して 52

演者：椎名 明大 千葉大学 社会精神保健教育研究センター 治療・社会復帰支援研究部門 特任教授

■ シンポジウム⑤(10:45～12:25)

多職種で非行・触法行為を考える「子どもの司法精神医学」

座長：荒嶽 達也 北海道大学病院子どものこころと発達センター

少年非行に関する一考察 — 児童相談所常勤弁護士の立場から — 53

演者：橋本 佳子 名古屋市中央児童相談所 担当課長

児童相談所における非行・触法ケースへの対応と現状 54

演者：土田 佳織 札幌市児童相談所

児童思春期精神医療における多職種連携、地域機関との連携の実際 55

演者：須山 聡 放送大学教養学部

非行少年の集団力動に認められる精神病理

— 若年パーティ症候群 (Teenagers' party syndrome) (仮称) について — 56

演者：吉岡 眞吾 愛知県精神医療センター 精神科・児童精神科

■ ワークショップ②(14:30～16:30)

当事者研究・対話実践 58

プレゼンター：向谷地 生良 社会福祉法人浦河べてるの家 理事長 (北海道医療大学名誉教授)

プレゼンター：佐藤 満 札幌刑務所矯正処遇部 主任矯正処遇官

プレゼンター：池松 麻穂 社会福祉法人浦河べてるの家 ソーシャルワーカー (事務局長)

第 2 日目 6 月 6 日 (土)

第 3 会場 (大集会室 2)

■ 一般演題⑤ (9:00 ~ 10:00)

医療観察法

座長：中根 潤 下総精神医療センター 院長

- 05-1 統合失調症とレビー小体型認知症を合併した医療観察法入院対象者症例 68
 発表者：新田 齊久 国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部/
 東京科学大学犯罪精神医学教室
- 05-2 院内暴力事案の加害者処遇をめぐる刑事-医療連携についての検討 68
 発表者：新井 里沙 国立精神・神経医療研究センター病院 司法精神診療部
- 05-3 医療観察法鑑定における急性一過性精神病と通院処遇 69
 発表者：北村 大史 国立病院機構 久里浜医療センター
- 05-4 自分の中の別人格が対象行為を惹き起こしたと述べる
 妄想型統合失調症対象者の医療観察鑑定の経験から 69
 発表者：須貝 孝一 山形県立こころの医療センター

■ 一般演題⑥ (10:05 ~ 11:05)

医療観察法、その他 1

座長：柏木 宏子 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 司法精神診療部 医長

- 06-1 医療観察法における社会復帰調整官の業務困難感と支援ニーズ
 — 変数中心・個人類型化の統合的検討 — 70
 発表者：野村 照幸 新潟医療福祉大学/さいがた医療センター
- 06-2 医療観察法退院時処遇終了者について 70
 発表者：本村 啓介 国立病院機構花巻病院
- 06-3 司法精神医療における意思決定支援の実施範囲
 — スコーピング・レビューを用いた検討 71
 発表者：小池 純子 国立精神・神経医療研究センター
- 06-4 指定入院医療機関の機能改善とクリティカルパスに関する研究 (1)
 ~機能改善に向けた医療機関のアセスメント 71
 発表者：壁屋 康洋 国立病院機構榊原病院

はじめに

日程表

プログラム
第 1 日目

プログラム
第 2 日目

ポスター
プログラム

指定演題

一般演題

■ 一般演題⑦ (11:10 ~ 12:10)

医療観察法、その他 2

座長：黒木 規臣 埼玉県立精神医療センター 病院長

- 07-1 法科大学院受講生における医療観察法の認識について 72
発表者：入谷 修司 桶狭間病院附属脳研究所／愛知県精神医療センター
- 07-2 再被害／再処遇の医療観察法長期入院事例に対する、
10年以上の多職種チームによる障害特性や個別的背景に応じた多様な処遇
— 事例の特性と長期入院を支える関わり — 72
発表者：上田 研太 大阪府立病院機構大阪精神医療センター
- 07-3 再被害／再処遇の10年以上の医療観察法長期入院事例に対する、
多職種チーム医療による障害特性や個別的背景に応じた多様な処遇
— 衝動と社会復帰阻害要因への対応 — 73
発表者：上田 研太 大阪府立病院機構大阪精神医療センター
- 07-4 日本における性嗜好障害等に対する治療実態に関する全国調査研究 第1報 73
発表者：椎名 明大 千葉大学社会精神保健教育研究センター

■ 対談② (13:05 ~ 13:55)

精神科医療施設内暴力の被害を受けた医療従事者のケア

座長：石津 すぐる 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター 副院長

- 精神科医療施設における性暴力被害を受けた医療従事者のケア
— 「患者理解」と支援者保護のはざま — 34
演者：小西 聖子 武蔵野大学 学長

- 精神科医療施設内で暴力が生じた際の個人・組織としてのケア 35
演者：高尾 碧 島根県立こころの医療センター 病院長補佐

■ ワークショップ③ (14:30 ~ 16:30)

- リカバリーを目指す認知療法 59

ファシリテーター：耕野 敏樹 岡山大学学術研究院社会文化科学学域（文学部）准教授
ファシリテーター：菊池 安希子 武蔵野大学人間科学部 教授

第 1 日目 6 月 5 日 (金)

ポスター会場 (展示場)

■ ポスターセッション① (17:00 ~ 17:30)

- P1-01 母殺害に及んだ未治療統合失調症者の起訴前本鑑定事例** 74
 杉本 裕子¹⁾、安藤久美子²⁾
 岡崎医療刑務所¹⁾、東京科学大学 保健管理センター²⁾
- P1-02 当院における放火事例 6 例の検討** 74
 澤田 健
 高知医療センター 精神科
- P1-03 英米圏における責任能力論の近年の文献的検討 その 1** 75
 平田 りさ¹⁾、吉岡 隆一²⁾
 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座精神医学教室¹⁾、京都府立洛南病院²⁾
- P1-04 自閉スペクトラム障害の単独診断であり医療観察法不処遇となった鑑定経験及びその後の経過についての検討** 75
 山下 健
 三重県立こころの医療センター
- P1-05 指定通院医療機関の通院処遇開始前の業務量に関する実態調査** 76
 久保 彩子¹⁾、前上里 泰史¹⁾、諸見 秀太¹⁾、長根山 由梨¹⁾、高尾 碧³⁾、小池 純子⁴⁾、本間 (照井) 稔宏⁵⁾、大鶴 卓²⁾
 国立病院機構琉球病院¹⁾、琉球こころのクリニック²⁾、島根県立こころの医療センター³⁾、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所⁴⁾、福島県立医科大学⁵⁾
- P1-06 通院処遇モニタリングシステムの大規模化・研究事業化に向けた指定通院医療機関に対する調査** 76
 前上里 泰史¹⁾、久保 彩子¹⁾
 国立病院機構 琉球病院¹⁾
- P1-07 他害行為を反復した事例への地域支援
 — 医療観察法における CPA 手法の精神保健福祉法への応用** 77
 奥田 真由美¹⁾、吉川 輝¹⁾、前原 和子¹⁾、白石 有希¹⁾、耕野 敏樹¹⁾、井上 雅雄²⁾、梶原 好恵²⁾
 岡山県精神科医療センター¹⁾、岡山パブリック法律事務所²⁾
- P1-08 川崎市における措置通報の分析 — 高齢者に着目して —** 77
 袖長 光知穂¹⁾、河野 稔明³⁾、石井 美緒²⁾、柴崎 聡子²⁾、竹島 正⁴⁾
 聖マリアンナ医科大学神経精神科¹⁾、川崎市総合リハビリテーション推進センター²⁾、国立精神神経医療研究センター³⁾、大正大学地域構想研究所⁴⁾

第2日目 6月6日(土)

ポスター会場(展示場)

■ ポスターセッション②(11:55~12:25)

- P2-01 医療観察法における法的地位の差異が身体合併症治療の受入に影響した一例
— 鑑定入院と入院処遇の比較 —** 78
畑本 貴則¹⁾、伊東 寛哲²⁾、米田 順一¹⁾、北村 大史¹⁾
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科¹⁾、The University of Sydney²⁾
- P2-02 当センターで近年急激に増加した
「物質使用障害が主診断で入院処遇となった対象者」についての考察** 78
澤 潔
群馬県立精神医療センター
- P2-03 医療観察法病棟の統合失調症患者における BMI と生活スキルプログラムの関連：
後方視的コホート研究** 79
山元 直道¹⁾²⁾、石岡 俊之³⁾、竹田 康二⁴⁾、浪久 悠¹⁾、小砂 哲太郎¹⁾、宮本 葵¹⁾、吉村 直記¹⁾
国立精神・神経医療研究センター病院 精神リハビリテーション部¹⁾、
神戸大学大学院 保健学研究科 博士課程後期課程²⁾、神戸大学大学院 保健学研究科³⁾、
国立精神・神経医療研究センター病院 司法精神診療部⁴⁾
- P2-04 医療観察法指定入院における放火のプログラム改変の試み** 79
羽瀨 知可子¹⁾、森田 真登¹⁾、森 晶仁¹⁾、榊原 崇記¹⁾、前田 珠里¹⁾、鈴木 寛人¹⁾、坂下 将太¹⁾、吉岡 眞吾¹⁾、
服部 陽子¹⁾
愛知県精神医療センター精神科¹⁾
- P2-05 医療観察法における「内省」の構成要素の検討
— 共通言語および包括的指標の構築に向けて —** 80
福澤 宏之¹⁾、賀古 勇輝¹⁾、三井 信幸²⁾、石川 修平²⁾、高信 径介³⁾、静川 憲一¹⁾、高田 佳¹⁾、加藤 隆弘²⁾
北海道大学病院附属司法精神医療センター¹⁾、北海道大学病院²⁾、北海道立向陽ヶ丘病院³⁾
- P2-06 司法精神医療病棟に入院する統合失調症患者への
作業療法の実践内容とアウトカムスコアレビュー** 80
曳田 憲昭¹⁾、國田 幸治¹⁾、山元 直道³⁾、岡田 宏基⁴⁾、森元 隆文²⁾、賀古 勇輝¹⁾、加藤 隆弘⁵⁾
北海道大学病院附属司法精神医療センター¹⁾、札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科²⁾、
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神リハビリテーション部³⁾、
北海道大学大学院保健科学研究科 リハビリテーション科学分野⁴⁾、
北海道大学 大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野⁵⁾
- P2-07 医療観察法入院中の統合失調症患者に対する
前頭葉・実行機能プログラム FEP による認知機能改善の可能性** 81
國田 幸治¹⁾、五十嵐 祥子¹⁾、小野 智矢¹⁾、齊藤 由美¹⁾、大野 俊¹⁾、曳田 憲昭¹⁾、賀古 勇輝¹⁾、加藤 隆弘²⁾
北海道大学病院附属司法精神医療センター¹⁾、
北海道大学大学院医学研究科神経病態学分野精神医学教室²⁾
- P2-08 主診断 F2 の下位分類に着目した
医療観察法入院対象者の基本的因子による類型化** 81
河野 稔明¹⁾、小池 純子¹⁾、竹田 康二²⁾、岡野 茉莉子¹⁾、藤井 千代¹⁾、平林 直次²⁾
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所¹⁾、国立精神・神経医療研究センター病院²⁾